

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和6年 6月26日	
千葉県知事 熊谷 俊人 殿	
提出者 〒299-1141 住 所 千葉県君津市君津1番地 氏 名 日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 東日本製鉄所長 野見山 裕治 電話番号 0439-50-2041	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	日本製鉄株式会社 東日本製鉄所 君津地区
事業場の所在地	千葉県君津市君津1番地
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：製造業 中分類：鉄鋼業
②事業の規模	前年度の製造品出荷額：7,924億円
③従業員数	15,598人（正社員 3,661人、常勤関係職員 11,937人）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1参照

(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
別紙2 参照			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項 別紙3 参照			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 産業廃棄物の分別は継続的に実施している。 ・ 廃プラスチック類の分別もできている。		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・ 産業廃棄物の分別を強化する。 ・ 環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して周知徹底の継続を図る。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項 別紙4参照

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項 別紙5参照

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項 別紙6 参照

①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項 別紙7 参照

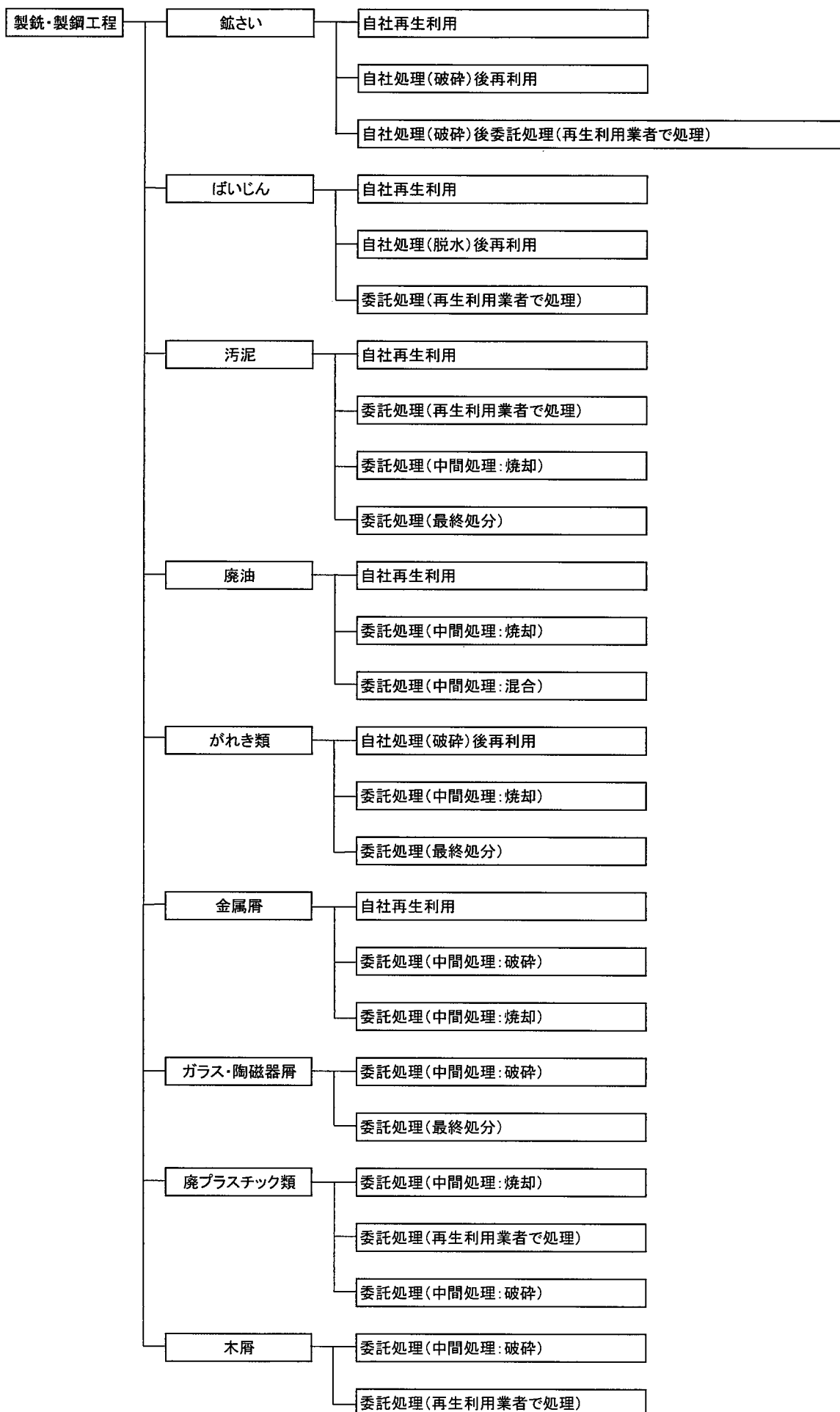
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(これまでに実施した取組)		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
※事務処理欄			

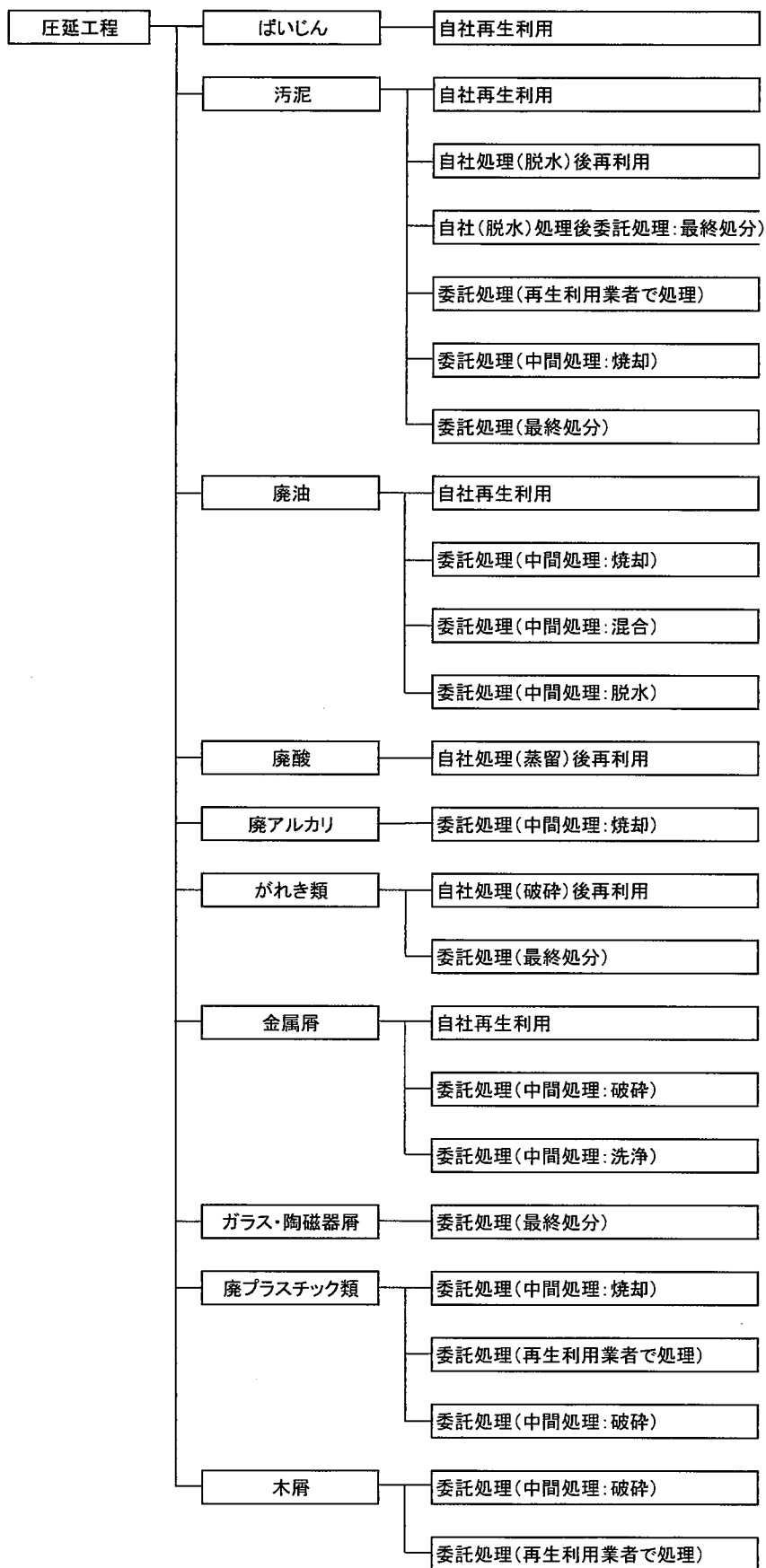
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

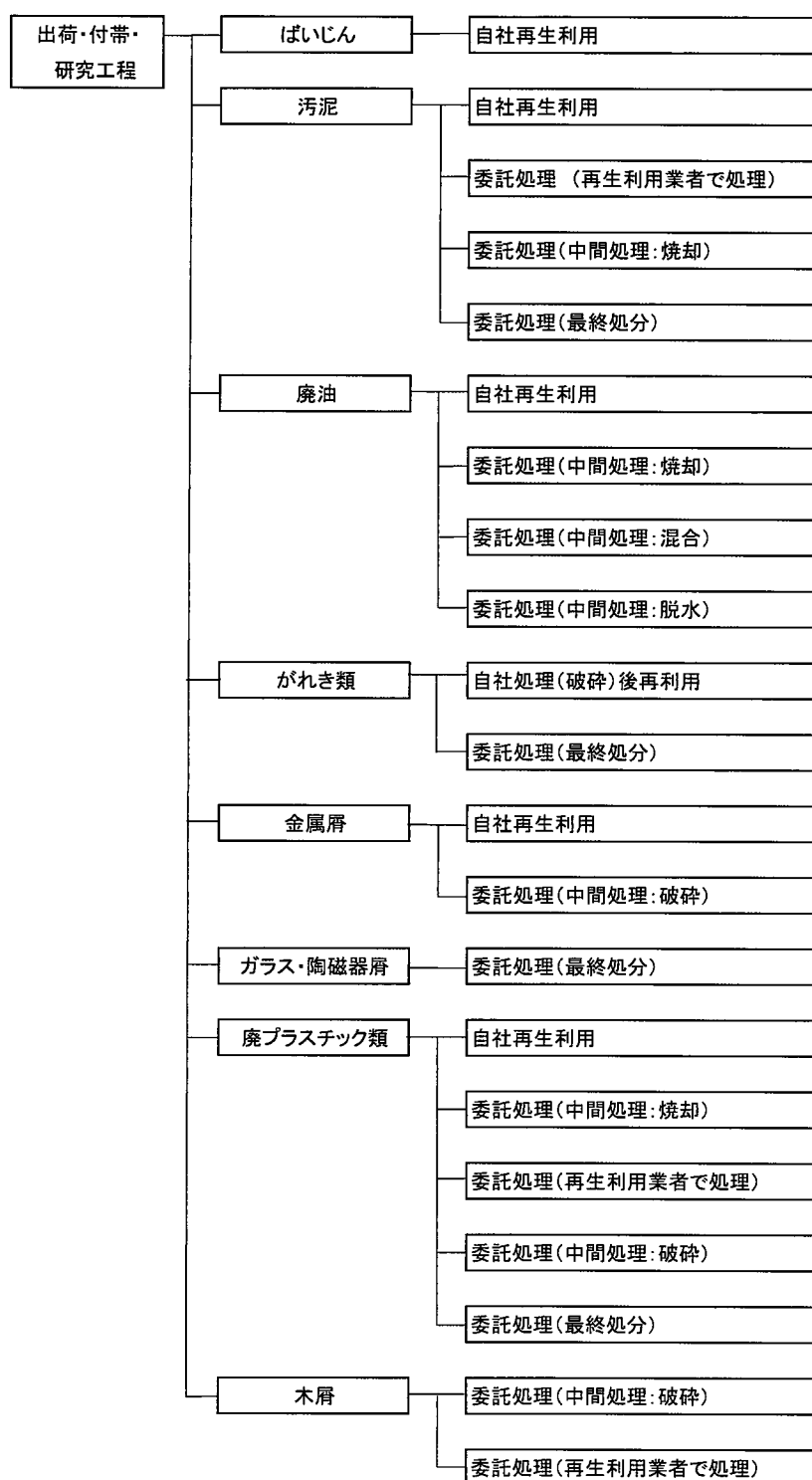
別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程(1/3)



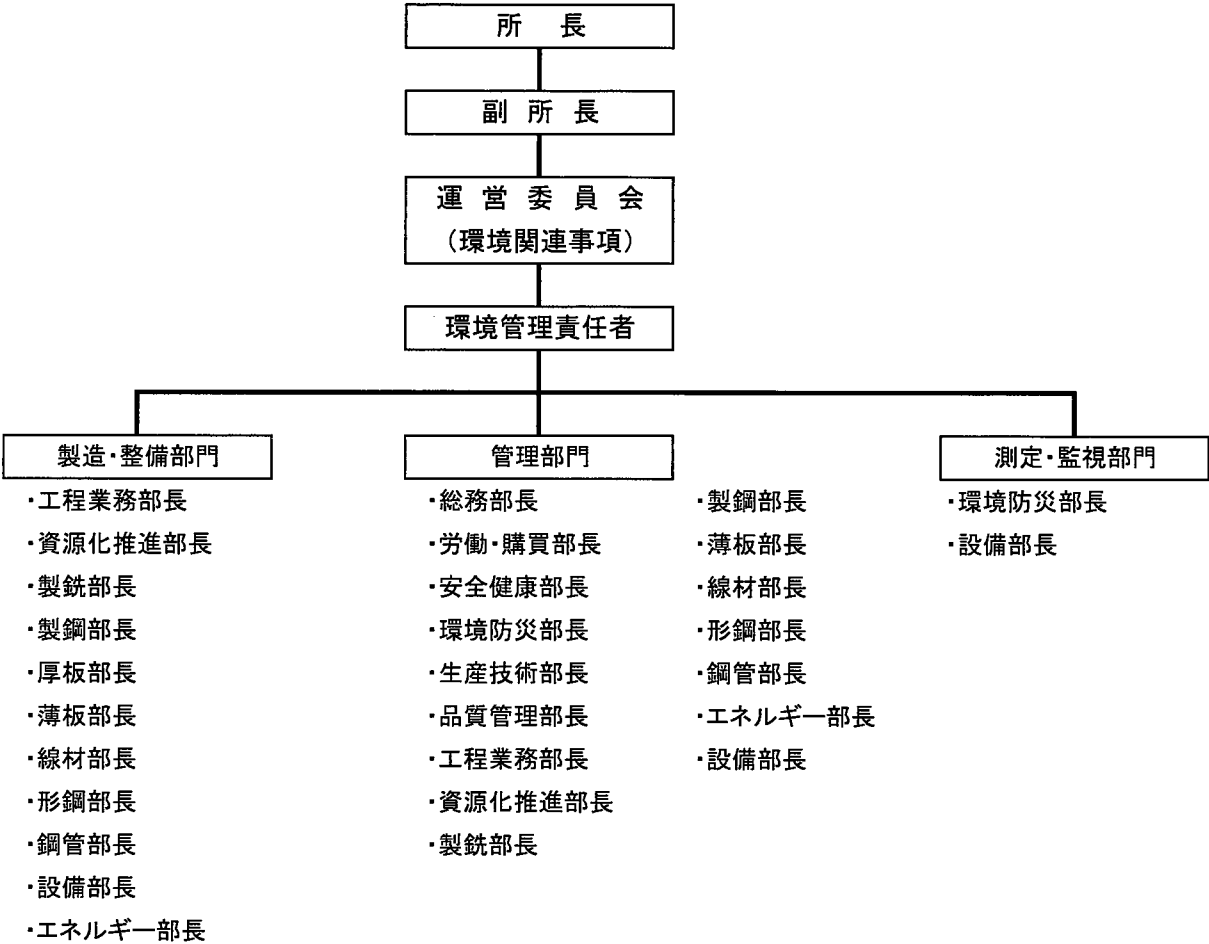
別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程(2/3)



別紙1 産業廃棄物の一連の処理の工程(3/3)



別紙2 管理体制図



注) 製造・整備部門長はスタッフ部門の掌握も行っており管理部門長と重複。
監視・測定部門長は重複。

別紙3 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	【前年度(令和5年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	鋳さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
①現状	排出量	1,539,840.4 t	1,099,270.7 t	172,888.2 t	7,607.7 t	74,451.5 t	73,743.4 t	24,761.0 t	895,015.9 t	171.6 t	2,633.5 t	213.9 t
	(これまでに実施した取組み)											
	・排出量を減少できる操業改善、超寿命化を行い排出量を削減する。 ・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化している。 ・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を実施している。											
	【目標】											
	産業廃棄物の種類	鋳さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
②計画	排出量	1,385,856.4 t	989,343.6 t	155,599.4 t	6,846.9 t	67,006.4 t	66,369.0 t	22,284.9 t	805,514.3 t	154.4 t	2,370.2 t	192.5 t
	(今後実施する予定の取組み)											
	・排出量を減少できる操業改善、超寿命化を行い排出量を削減する。 ・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化する。 ・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を継続する。											

別紙4 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	鉱さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	1,539,840.4 t	494,302.4 t	108,435.0 t	3,969.0 t	74,450.0 t	0.0 t	9,770.0 t	895,004.8 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(これまでに実施した取組み) ・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化している。 ・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を実施している。 ・所内発生物に対して成分分析を積極的に行い利材化を推進している。 ・鉱さい、ばいじん、汚泥： 製鉄原料としてリサイクルしているほか、セメント原料として外販している。 鉄含有の少ない汚泥についても製鉄原料としてリサイクルをすすめている。 ・廃油、金属屑、廃プラスチック類： 製鉄原料としてリサイクルしている。 ・廃酸： 製鉄用副材料としてリサイクルしている。 ・がれき類： 製鉄用副材料としてリサイクルしているほか、耐火物原料や路盤材原料として外販している。											
②計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	鉱さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	1,385,856.4 t	444,872.2 t	97,591.5 t	3,572.1 t	67,005.0 t	0.0 t	8,793.0 t	805,504.3 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(今後実施する予定の取組み) ・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化する。 ・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を継続する。 ・所内発生物に対して成分分析を積極的に行い利材化推進を継続する。 ・鉱さい、ばいじん、汚泥： 製鉄原料としてリサイクルしているほか、セメント原料として外販することを継続する。 鉄含有の少ない汚泥についても製鉄原料としてリサイクルすることを継続する。 ・廃油、金属屑、廃プラスチック類： 製鉄原料としてリサイクルすることを継続する。 ・廃酸： 製鉄用副材料としてリサイクルすることを継続する。 ・がれき類： 製鉄用副材料としてリサイクルしているほか、耐火物原料や路盤材原料として外販することを継続する。											

別紙5 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	鉱さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	4,512.6 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	0.0 t	604,436.5 t	43,858.4 t	3,371.8 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(これまでに実施した取組み) ・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化している。 ・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を実施している。 ・ばいじん、汚泥：脱水処理することで産業廃棄物を減量している。 ・廃油：焼却設備により焼却することで、蒸気として熱回収を行うとともに産業廃棄物を減量している。 ・焼却後の燃え殻：製鉄原料としてリサイクルしている。											
②計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	鉱さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	4,061.3 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	0.0 t	543,992.9 t	39,472.6 t	3,034.6 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(今後実施する予定の取組み) ・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化する。 ・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を継続する。 ・ばいじん、汚泥：脱水処理することで産業廃棄物を減量化することを継続する。 ・廃油：焼却設備により焼却することで、蒸気として熱回収を行うとともに産業廃棄物を減量化することを継続する。 ・焼却後の燃え殻：製鉄原料としてリサイクルすることを継続する。											

別紙6 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】											
	産業廃棄物の種類	鉱さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(これまでに実施した取組み) ・自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分は行っていない。											
②計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	鉱さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	(今後実施する予定の取組み) ・今後も自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行う予定はない。											

別紙7 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度(令和5年度)実績】												
①現状	産業廃棄物の種類	鋳さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	全処理委託量	0.0 t	531.8 t	20,594.8 t	266.8 t	1.5 t	73,743.4 t	14,991.0 t	11.1 t	171.6 t	2,633.5 t	213.9 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	5,583.8 t	266.8 t	1.5 t	56,640.7 t	0.0 t	4.6 t	154.6 t	1,111.5 t	0.0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0.0 t	531.8 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	2,685.0 t	10.3 t	8.1 t	343.3 t	213.9 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	2,507.5 t	80.2 t	1.0 t	17,149.7 t	0.0 t	0.7 t	4.8 t	2,204.9 t	0.0 t
(これまでに実施した取組み)												
・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化している。												
・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を実施している。												
・産業廃棄物を再生利用できる業者に委託している。												
・再生できない産業廃棄物は熱回収できる業者に委託している。												
②計画	【目標】											
	産業廃棄物の種類	鋳さい	ばいじん	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	がれき類	金属屑	ガラス・陶磁器屑	廃プラスチック類	木屑
	全処理委託量	0.0 t	478.6 t	18,535.3 t	240.1 t	1.4 t	66,369.0 t	13,491.9 t	10.0 t	154.4 t	2,370.2 t	192.5 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	5,025.4 t	240.1 t	1.4 t	50,976.6 t	0.0 t	4.1 t	139.2 t	1,000.3 t	0.0 t
	再生利用業者への 処理委託量	0.0 t	478.6 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	2,416.5 t	9.3 t	7.3 t	308.9 t	192.5 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t	0.0 t
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0.0 t	0.0 t	2,256.8 t	72.2 t	0.9 t	15,434.7 t	0.0 t	0.7 t	4.3 t	1,984.4 t	0.0 t	
(今後実施する予定の取組み)												
・資源化推進部と四半期ごとに報告を行い認識を共有化する。												
・環境月間キャンペーンや環境キーマン研修を通して従業員への啓蒙活動を継続する。												
・今後も産業廃棄物を再生利用できる業者への委託を基本とし対応していく。												
・今後も再生できない産業廃棄物は熱回収できる業者への委託を基本とし対応していく。												